

平成29年度第2回 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	平成29年9月7日(木) 午後4時15分～5時15分
場 所	青葉区役所4階402・403会議室
出席者	<p>【議長】 横山議員</p> <p>【議員：8名】 青木マキ議員、赤野たかし議員、内田みほこ議員、菅野義矩議員、行田朝仁議員、小島健一議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員</p> <p>【説明局員：31名】</p> <p>小池恭一区長、小出重佳副区長、勝島聡一郎福祉保健センター長、近野真一福祉保健センター担当部長、楨重善青葉土木事務所長 ほか関係職員</p>
次 第	<p>報告事項</p> <p>(1) 青葉区まちづくり指針の改定について (資料1・区政推進課)</p> <p>(2) 青葉区シニアパワー活用事業について (資料2・高齢・障害支援課、こども家庭支援課、福祉保健課)</p>
報告事項(1) 青葉区まちづくり指針の改定について	
発言の 要 旨	<p>横山議員 指針はPDF等でダウンロードできるのか。</p> <p>吉田区政推進 課担当課長 区役所のホームページのトップページから、「くらしの情報」、「まちづくり」、「都市計画マスタープラン」とたどっていただくと、PDFを掲載したページをご覧ください。</p>
報告事項(2) 青葉区シニアパワー活用事業について	
発言の 要 旨	<p>山下議員 青葉は優れた人材が非常に多く、こういった取組に期待したい。 この取組は、いわゆるボランティア的な人材の発掘なのか、それとも今までの経験を活かしてスモールビジネスを立ち上げ、生涯現役で頑張りたいということなのか、どちらに重点を置いているのか。</p> <p>小池区長 今年度の事業としては、その両方をメニューとして備えている。 それぞれのメニューで参加していただいた方が、ソーシャルビジネスを目指す、あるいはいわゆる地域活動でデビューしていただくなど、各々の選択した分野においてご活躍いただければと考える。 そして、参加者の仲間づくりを行い、ネットワーク化することが事業の一つのねらいであるが、もう一つのねらいとしては、この事業を手伝っていただいているNPOや既に起業されている方、ソーシャルビジネスをやっている方が青葉にはたくさんいらっしゃるの、この方たちについてもネットワーク化し、区民の皆さんのサポーターになっていただきたいという意図もある。</p>

	<p>今年は先生のおっしゃるように二つの概念が混ざっているし、次世代の担い手となる中高生にも啓発していこうとも考えているので、事業としては二兎も三兎に追っている状態だが、まず今年は人材発掘をしてみようということに取り組んでいる。</p> <p>青葉区は人口も31万人になり、高齢者といわれる方でスキルを持っている方もたくさんいらっしゃる。</p> <p>シニアパワー活用事業は非常にいい取り組みだと思うが、スモールビジネスをスタートアップするということになると、個人メンター、アドバイザー的な人材が必要になる。</p> <p>今回の事業にはI D E Cの方に入っているが、I D E Cのアドバイザーは、もともと大企業でそれなりのビジネスをやっていた方でリタイア後に入ってくるという方が多い。</p> <p>この事業で発掘した人材に対しては、資金的な面も含めていろいろなサポートが必要になってくると思うが、コーディネーターの役割は、誰がやるのか。</p>
<p>山下議員</p>	<p>青葉区は人口も31万人になり、高齢者といわれる方でスキルを持っている方もたくさんいらっしゃる。</p> <p>シニアパワー活用事業は非常にいい取り組みだと思うが、スモールビジネスをスタートアップするということになると、個人メンター、アドバイザー的な人材が必要になる。</p> <p>今回の事業にはI D E Cの方に入っているが、I D E Cのアドバイザーは、もともと大企業でそれなりのビジネスをやっていた方でリタイア後に入ってくるという方が多い。</p> <p>この事業で発掘した人材に対しては、資金的な面も含めていろいろなサポートが必要になってくると思うが、コーディネーターの役割は、誰がやるのか。</p>
<p>小池区長</p>	<p>今はそれぞれのプロジェクトごとに、N P Oの方がいたり、手伝ってくださる区民の方がいて、それぞれのプロジェクトが成り立っている。</p> <p>例えば“花と緑、豊かな青葉”というテーマのプロジェクトがこれからできるとすれば、その中を束ねるコーディネーターが必要となるだろうし、ほかのプロジェクトがあればそこにもコーディネーターがいるということになるが、それらを全部束ねるコーディネーターというのは、なかなか難しいと思っている。</p> <p>そのような複数の支援者のネットワークをゆるく束ねていくのは、行政の役割でもあると考えている。</p>
<p>山下議員</p>	<p>これから始める事業なので、試行錯誤して前に進んでいくのだと思うが、発掘した人材の中から核になる人が出てくることもあるかと思う。その人材バンク、データ化の意味は大きい。</p> <p>私は、青葉区だけのI D E C、アドバイザーのようなものが生まれな いか、ということ期待している。</p> <p>例えば引退して悠々自適にやっている、スキルを持った人達が地域に埋もれているのはもったいない。そういう人達をこの事業で発掘し、市内の企業のアドバイザーやコーディネーターなどを担ってもらう。そういう人材も生まれてくる可能性がある。</p> <p>今回の事業はそうした人材バンクをつくるいいチャンスでもあり、今後の可能性に期待している。</p>

小池区長	<p>この事業の中でそういった人材を見つけていければ、それぞれのメニューの中でのアドバイザーと違う意味の、全体のアドバイザー的な、本当に頭脳になっていただくようなサポーターの集団というものもできてくると思うので、そこも目指したい。</p> <p>少し大きな希望ではあるが、青葉ならできるのではないかと考えているので、応援をお願いしたい。</p>
赤野議員	<p>シニアパワーの事業について、例えば都筑区などの他区でもこういった動きはあるのか。</p>
小池区長	<p>こういうしつらえで、こういう方達をターゲットとした取組は、おそらくないと思う。</p>
赤野議員	<p>神奈川県でも国でも同様の取組が始まっているが、青葉区では先進的にやられる方がたくさんいらっしゃる中で、その中でいろいろな形でつき合いが始まっているところもあると思う。</p> <p>しかし、地域活動をされている方にとっては、市域などには関係ない。例えば区を越えて、都筑区や、市外であるが川崎の宮前区など、そのような近隣の区でシニアパワーを活用しているようなところとのネットワークづくり・支援を行政として考えていただきたいと思うが、どうか。</p>
小池区長	<p>個々の人材のパワーというのは皆さんお持ちだが、それが青葉区全体に広がっていくような状況にはまだなっていない。まず我が区に力をつけないといけないと思っている。</p> <p>これからは横浜市内においても地域間競争が出てくると思っているので、やはり青葉の街は違うと思っていただけるようなものをつくっていくことが先決ではないかと考えている。</p>
赤野議員	<p>どの地域・行政でも大体ここまではできるのだが、次の段階に進むところで皆さん足踏みしてアイデアが浮かばなくて手詰まり状態というところが多い。</p> <p>ぜひ、これまでの枠を超えた支援をやっていただきたい。</p>